

新日銀ネットは二〇一五年十月に全面稼働開始

日本銀行は二〇一五年十月十三日、新日銀ネットの全面稼働を開始しました。

「日本銀行金融ネットワークシステム」（日銀ネット）は、一九八八年の稼働開始以来、金融機関の間での資金や国債の決済を安全かつ効率的に行うための、わが国の基幹的な金融インフラとして機能してきました。

今般、全面稼働を開始した新しい日銀ネット（新日銀ネット）は、経済・金融の国際化の一段の進展



新日銀ネットのロゴマーク

① Most Advanced IT（最新の情報処理技術の採用）、② Flexibility（変化に対して柔軟性が高いシステムの構築）、③ Accessibility（アクセス利便性の向上）の3つの基本コンセプトを記載。

など近年の環境変化も踏まえ、汎用性の高い最新の情報技術を積極的に取り込む形で構築されました。

これにより、今後起こり得る金融サービスの变化などに柔軟に対応することが可能な、発展性のあるシステムとなっています。例えば、金融取引のグローバル化や決済インフラのネットワーク化が進むも

とで、新日銀ネットは、国際的にも広く用いられているXML電文（ISO20022）や国際標準コード（ISIN、BIC）などの採用を通じて内外の決済システムや金融機関の接続性を向上させるなど、アクセス利便性の向上が図られています。

新日銀ネットの構築は、六年以上の歳月をかけ、民間金融機関を含む多くの関係者が協力しながら進められてきました。この間、休日を利用したテストも、幅広い関係者が参加する形で二〇回にわた

り行われてきました。まず昨年一月六日には、金融市場調節（オペレーション）と国債の入札関連業務および国債系オペレーションなどの受渡関連業務に関わる部分（第一段階開発分）が、先行して稼働を開始しました。そのうえで今般、

残りの当座預金取引や国債決済、与信担保関連業務についても、予定通り稼働を開始するに至ったものです。

新日銀ネットは、構築という面ではゴールに辿り着いたわけですが、これがいかに活用され、今後の金融サービスの発展といった果実に結びついていくかという面では、まさにスタートともいえます。

日本銀行は来年二月、新日銀ネットの稼働終了時刻を、現行の一九時から二一時に延長する方針です。これにより、アジアや欧州など海外の市場との決済時間帯のオーバーラップも一段と確保され、資金や国債の国境を跨いだ迅速な決



済が行われやすくなると考えられます。

日本銀行としては、新日銀ネットが、金融サービスの高度化や顧客利便性の向上、さらには日本の金融市場の一段の発展に繋がっていくことを期待しています。また、そうした方向で新日銀ネットが最大限有効に活用されていくよう、幅広い関係者の方々と建設的な対話を重ねてまいります。

※詳細は、日本銀行HPの「新日銀ネット」のコーナーをご覧ください。